

平成21年6月菊地健太郎一般質問

これまで大変な親しみ、そして気に入っていました議席番号7番から6番に変わった菊地健太郎です。

さて、アメリカの金融危機に端を発した世界的なこの不景気。金融工学を駆使し、あらゆるところから資本を集めたマネーゲーム。しかし、その実体は途上国の市場拡大に支えられてきた経済でした。途上国の成長が鈍ってきて、そのほころびが大きな穴となったと言えます。

誰が言ったかはもう忘れましたが、「未曾有の危機」ならぬ「みぞうゆうの危機」。あるいは、100年に一度の危機とも言われております。

しかし、長い歴史の中で、そろそろ成長や経済そのもののあり方を考え直すべき時期であり、私は100年に一度の、実はチャンスではなかったのかと思います。景気浮揚などが問題ではなく、実は今後の経済のあり方そのものが問われているのであり、新しいシステムと価値観をつくっていかねばならないのかもしれないかもしれません。

以前、福祉協力員の集まりに参加した際に、ある方に「福祉とは何ですか」と私が問いかけますと、「みんなが幸せになることです」との答えが返ってきました。幸せとは、お金や量でははかれない、心のありようだと思います。したがって、お金や量に換算することでは、価値や質を表現できない時代から、本当の価値や質が問える時代に向かい出したのでは、とそんな気がいたしました。

しかし、残念ながら現実には、これまでどおりの、「自分の生活が第一」と考える方が多いようです。

さて、アメリカでは、オバマ新大統領への期待が高まったものの、世界の中で確実にドルの基軸通貨としての地位が崩壊していく流れのようです。「自分の生活が第一」という人には、それほど関係ないように思えるかもしれませんが、原油を初め、食料、金などの国際取引の中心は現在、ドル建て決済になっております。オバマ新大統領もこの流れを見越して、ドル以外の通貨も機軸とする世界経済の多極化を目指しているようです。今後は多極化と自立、そして、自立した地域間のネットワークがキーワードになるかと思えます。

長々と経済評論家のようにしゃべらせていただきましたが、いずれにしても、地方分権、そして道州制などの今の流れの中で、自立した地域づくりが、今、求められています。

それでは、まず最初に、観光行政の進め方についてお尋ねいたします。

ことしに入って、NHK大河ドラマ「天地人」の放映、映画「おくりびと」のアカデミー賞外国語部門賞受賞、そしてモンテディオ山形のJ1昇格と、全国的に山形県が目立られ、観光客誘致にとって、まさに「天」の時であります。今こそ、どのようにして「地」の利を生かし、「人」の和を広げられるか、その取り組みに力を入れるべきときだと思います。

少子高齢化、産業の空洞化などを背景に、観光立国を目指し、昨年7月に、観光地が広

域連携した観光圏整備を行うことで、国内外の観光客が2泊3日以上滞在できるエリアの形成を目指す、観光圏整備法が施行されました。そしてその後、10月に観光庁が発足したことは御承知のとおりだと思います。

2020年に海外から日本を訪れる観光客2,000万人を目標に、国際競争力の高い魅力ある観光地づくりを推進し、地域の幅広い産業の活性化や、交流人口の拡大による地域の発展を図るものとしております。既に、近隣でも観光圏整備計画が策定されています。

宮城県仙台市から松島、気仙沼、そして岩手県平泉町までの「伊達な広域観光圏」。福島県福島市や相馬市を中心とした「やさしさと自然のぬくもり ふくしま観光圏」。福島県会津若松市周辺から本県米沢市にまたがる「会津・米沢地域交流圏」。そして、秋田県にかほ市から庄内地方一円、さらに新潟県村上市周辺までをエリアとする「日本海きらきら羽越観光圏」と、以上のように、南東北でいまだに観光圏を形成していないのは、本市を中心としたこの村山エリアから最上地方にかけての内陸部のみとなっています。本市が今こそ中心となって観光圏整備計画を策定すべきだと考えますが、いかがでしょうか。

続いて、「天地人」以降の観光客誘致についてお尋ねいたします。

これまで、歴史や仏像といえ、どちらかといえ、その興味は男性中心でしたが、昨今、女性の間で歴史・仏像ブームが広がっているようです。東京・上野公園の東京国立博物館の平成館で、今月の7日まで開かれていた奈良・興福寺創建1300年記念「国宝 阿修羅展」では、会期中61日間で総入場者数95万人だったそうです。さらに、女性を中心に「阿修羅ファンクラブ」なる会も結成され、会員数も1万人を数えるとのこと。

4年後の平成25年に、本市、山寺にある立石寺の秘仏である薬師如来坐像が50年ぶりに御開帳されるとのことですが、「天地人」以降を見据え、今のうちから、観光客誘致を始めるべきだと考えるのですが、いかがでしょうか。この御開帳に向けて、現在どのような準備を進めているのかお答えいただければと思います。

次に、J1サポーターへの観光PRなどについてお尋ねいたします。

モンテディオ山形が今期からJ1に昇格し、その公式戦に訪れる県外サポーターも増えているようです。ただし、我々山形のサポーターがアウェイ戦に行くときと同様に、スタジアムへ真っすぐ行って、試合が終われば真っすぐ帰る、いわゆる弾丸ツアーの方々が多く、本市への観光の影響は余りないのが現状のようです。

それでも、4月25日に行われた山形ー鹿島戦では、事前のPRを徹底したこともあり、多くの鹿島ファンが来形し、天童市内に600名、本市にも400名の鹿島サポーターが宿泊したとのこと。さらに、来月4日に行われる浦和レッズ戦においては、既にその日の天童市内と山形市内のホテルは、すべて予約で満室になっているようです。

これらからも、モンテディオのホームゲームでは、事前PRを徹底することにより、全国から多くのサポーターが訪れると思われるのですが、経済効果をより高めるためにも、せっかく山形に宿泊していただく、これらJリーグサポーター向けに特化した観光PR戦略を立ててはいかがでしょうか。

次に、2番目、定住自立圏構想についてお尋ねいたします。

昨年6月定例会の一般質問で、広域合併について市長は「3市2町で、合併を前提にして、より連携を強めてまいりたいと考えております」と答弁されました。

しかし、きのうの一般質問の答弁において、市長は「近隣自治体との連携の中で、緊密度によって合併もあり得る」と答えられました。広域合併と定住自立圏とでは多少違うものだと思うのですが、ここに来て、合併を前提としていた市長の考えは変わったのかどうかを、まずお聞きしたいと思います。

また、中心市を宣言する際には、定住自立圏と目される地域の他市町に、中心市がその将来像を示す必要があります。具体的にどのような点についてこれから協定を進めていくのかは、今後の研究会の課題でしょうが、今現在、市長の頭の中で考える定住自立圏のビジョン、さらにはほかの周辺市町に何の役割・機能を求めていくのかを伺いたいと思います。

さて、御承知のとおり、私が議員となる前から新清掃工場建設の話がありました。最初は蔵王半郷地区に建てるとの話でしたが、地域住民のコンセンサスを得られず断念することとなり、その後、短時間で建設地の公募を行い、現在の上山市柏木地区に建設することとなりました。先ほどの豊川議員の質問のとおり、現在、周辺自治体の反対や住民の反対、さらに土地問題の訴訟などで難航しているようです。

これら一連の新清掃工場の問題では、これは私の私見ですが、いつも焦って、建設を急ごうとしているように感じられ、さらにはその進め方、仕事の進め方に問題があるのではと最初は思っておりました。ただ、よく考えますと、その背景には、広域環境事務組合の中で本市は8割のごみを出しているにもかかわらず、その決定権は4分の1しかないのではないかと。その意思決定に時間がかかり、無理が生じているのではないかと考えるようになりました。

また、先ほど市長は「早急に建てる必要がある」と答えられましたが、この定住自立圏構想の話し合いを契機に、組合のあり方を見直し、まず本市が単独で清掃工場の建設を進めてみてはどうかと考えます。その上で、近隣の市町のごみ処理の受託を協議していく方が、よりスピーディに事業の進展を図れると考えるのですが、いかがでしょうか。

次に、サッカー専用球場建設について質問いたします。

きのうの一般質問のトップ、自称・切り込み隊長の石沢議員の質問に対し、市長は「駅西にサッカースタジアム建設は無理である」と答えられました。しかし、同じJリーグの公式戦を行っている千葉・柏・三ツ沢・鳥栖などのスタジアムと同等規模であれば、このように駅西のタクシーベイを移動することで、1万9,300人収容のスタジアム建設は可能です。さらに、駅の改札を出て雨にも濡れず、真っすぐスタジアムへ入れる大変素敵なスタジアムができるものと思います。ついですが、これから霞城公園の中からなくなるであろう将来、体育館もここに併設することは可能です。

荘銀総研によると、モンテディオ山形のJ1昇格が県経済に及ぼす経済波及効果は29

億円強とのことでしたが、スタジアムがもし本市にあれば、それ以上の効果があることは間違いございません。

何よりも、現在のNDソフトスタジアムではスタンドから選手たちまでの距離があり、臨場感が全くありません。28日に行われる川崎戦からは、わずか63席ですが、砂かぶりならぬ「芝かぶり席」が設置されるとのことです。このように観戦者にとっては迫力あるプレーを間近で見たいのです。臨場感のあるスタジアムであれば、自然と観客動員数は上がるものと思います。

また、公共交通機関や自転車で行ける場所にスタジアムがあれば、観客動員数をより増やすだけでなく、現在の車でしか行けない場所とは違い、CO2削減効果も大いに期待できると思います。

また、現在、県都の玄関口である山形駅をみますと、西口には広大な空き地、東口のペDESTリアンデッキの先も非常にむなしい空間という状況でございます。まさに中心市街地の空洞化を象徴する光景が、山形を訪れた方の第一印象として目に入ってくるわけです。山形駅西口にスタジアムをつくれば、多くの人を集客し、それに伴い西口周辺だけではなく東口、さらには中心市街地全体も活気づくものと思います。

また、きのうの答弁で市長は「建設費は100億円を超える」とお答えになりましたが、つい4年前にできた千葉のフクダ電子アリーナなどを参考に試算しますと、65億円程度で建設することができるようです。スポーツ振興くじ助成金などを使い、ドーム型球場の建設基金として積み立てていた財源など、さらには市民や企業からの出資などを加えて、官民一体となって建設を今計画すべきだと思います。

仮に、県が以前建設しようとしていた総合文化施設なる箱物を、これから西口につくるとして、その建設費は280億円近く、さらに、そこにもし満席状態で人が集まったとしても2千数百名程度です。モンテディオ山形の集客だけを考えても、その費用対効果は歴然としていると思います。

また、市長がよく言われる駐車場問題は、公共交通の利用を呼びかけた上でパークアンドライド方式をとり、落合のスポーツセンターやビッグウイングからはJR、県庁・村山総合支庁・あかねヶ丘競技場などの駐車場からはシャトルバスを運行すれば解決できると思うのですが、どうでしょうか。

次に、揮発油等の品質確保法改正後のBDFについてお聞きします。

平成19年3月31日から品質確保法施行規則の改正がなされ、植物由来燃料であるBDF、バイオディーゼル燃料に軽油を混合する場合、BDF5%以下の混合率としなければならなくなりました。また、5%混合軽油の場合、攪拌機による攪拌及び豊川議員がおっしゃるとおり、四半期に1回の成分分析が必要となりました。つけ加えますが、5万円でできるそうです。市長の公用車のように100%での使用は問題がないのですが、この件に関し、市内の公共交通事業者や軽油を取り扱う石油事業者は、現実的に攪拌を含めたBDF混合への協力は難しいとの考えを示しています。

そのため、これまでBDFを混合して運行していた中心街循環バスや地域交流バス、さらに芸工大のスクールバスなどでは混合できなくなりました。一方、原料供給の面では、さきの豊川議員の質問にもあったとおり、循環型社会構築に向けて、家庭からの廃食油の回収事業なども今検討されております。

今後、どのようにBDF利用を拡充していくのかをお伺いしたいと思います。

次に、バイオマスタウン構想についてお尋ねします。

地球温暖化防止や循環型社会の形成を目的としたバイオマスタウン構想の策定市町村について、農林水産省は来年度まで300地区の構築を目指していましたが、この5月末現在、213市町村が既に構想を発表しています。

BDF事業や最終処分場の堆肥リサイクル、発電など、本市の取り組みは民間の取り組みなども取り入れ、ちょっと手を加えれば、バイオマスタウン構想として十分公表できるものであると思います。残された時間は余りありませんが、今後、国に対し公表を申請する考えがないのか、お伺いしたいと思います。

最後の項目になります。中心市街地の道路整備について質問します。

少子高齢化が、今後ますます進むことは確実となっている現在、本市において、高齢者だけの世帯がますます増えていくと思います。そのような中、自動車の運転免許を返上する御高齢の方も増えております。そのような方々にとって買い物など日常の移動手段は、公共交通網の充実していない本市では、徒歩あるいは自転車に頼らざるを得ません。

昨年の6月定例会でも質問させていただきましたが、環境にも優しく、健康にもよい自転車を安全に運転できる道路環境づくりが急務だと思います。

一昨年度、国交省と警察庁により、山形市の中心市街地区が「自転車通行環境に関する整備のモデル地区」に指定をされております。このモデル地区に指定されたことにより、国道、県道、あるいは市道、それぞれの管理者が専用レーンをできるだけ設置することとなっております。しかし、山形駅西口に設置以来、その後目立った動きはないようです。今後の予定も含めてどのような計画を考えておられるのかを、まずお尋ねいたします。

また、歩行者と自転車の交通安全対策として、十日町角から七日町までの国道112号線にもともとあった自転車専用レーンがカラー舗装されてから半年以上が経過しましたが、実際に専用レーンを走行している自転車の数は、以前と余り変わらないようです。

七日町大通りの歩行空間の安全性に関する実態・意識調査を一昨年、そして昨年行いましたが、カラー舗装することにより自転車レーンの認知度は56%から70%へと、14ポイントほど上がりました。しかし、自転車レーンは危ない、という方はむしろ増えております。その背景には、自転車専用レーンをふさぐ駐停車車両の問題があるようです。

特に、客待ちのタクシーが何台もつながり、自転車レーンを長い区間ふさいでいる光景はよく見受けられます。その解決手段の1つとして、この8月から、七日町と本町で3カ所にタクシーベイをつくる話があります。しかし、いずれの予定の場所も2台程度しか停車するスペースがとれず、これでは根本的な解決にはならないと予想されます。

そこで、中心市街地活性化基本計画による御殿堰の再開発などにあわせて、タクシー専用道路を整備してはどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

また、全国的に都市部では自転車ブームですが、山形まるごと館や文翔館、霞城公園、寺町などのいわゆる本市のまちなか観光エリアの広さは、自転車を利用して回るには、ちょうどよい範囲だと思います。

本年は、山形国際ドキュメンタリー映画祭開催年ですが、これまで映画祭で使用されてきた七日町のミュージズと旭座が残念ながら閉鎖されました。今回はアズ七日町を主会場に、市民会館、フォーラム、そして霞城セントラル内のソラリスも使用する予定だと聞いております。これまで10回の映画祭とは違い、参加者の移動時間が大幅にかかると予想されます。そこで、これらの映画館などの動線に、回遊性を考慮した自転車専用レーンを臨時に設置し、レンタサイクルの基地なども設置し、映画祭訪問者に実験的に利用してもらい、観光客、そして自転車を移動手段とする市民の安全のために、自転車用の道路ネットワークの構築を研究する大変よい機会であると思うのですが、実施してみたいかどうか。

市長の前向きな答弁を期待いたしまして、以上で1回目の質問を終わります。ありがとうございました。

市長答弁

菊地議員の御質問に答えさせていただきます。

第1点目ですが、観光圏の整備についてということでございます。御指摘のとおり、いわゆる観光整備実施計画認定対象地域につきましては、米沢が福島の会津と、それから庄内関係の方では秋田と認定を受けております。私どもの方で、現在この観光圏整備につきまして、観光協会、それから蔵王温泉の観光協会、山寺観光協会、そして村山総合支庁と意見を交換しているところでございます。これにつきましては、観光圏整備計画の策定、あるいは観光地の魅力と国際競争力を高める方策について、どのような方法が山形に合ったやり方なのか、今後とも協議をしていきたいと。枠組みとすれば、7市7町の枠組みも十二分に考えられるだろうというふうに考えております。なお、この辺のエリアについては、さらに協議をしてまいりたいと考えております。

それから、山寺の薬師如来座像の御開帳が50年に一度ということで、平成25年には開帳が予定されております。これはやはり山寺を訪れてもらう、山形を訪れてもらう絶好の機会だろうというふうに考えております。御開帳そのものは立石寺がPRをすべきものでございますが、それに付随して、ぜひ観光客というものを誘致したいと思っております。現在、山寺地区の方では、観光パンフレットに事前に告知をしております。あるいは、各店に絵馬を飾ったりしてPR活動を開始しております。今後、行政として山寺観光協会と一緒にしながら、そのお客さんを中心市街地に引っ張ってくる。あるいは蔵王への宿泊を誘導する。こんな方策をぜひ具体的に観光協会等と連携をしながら、行政としてもか

かわっていききたいと、積極的にかかわっていききたいと考えております。

それから、J1サポーターへの観光PRでございますが、J1の昇格によって非常に人気が出しております。これについて、このプロジェクト会議。これを利用したというんでしょうかね、こういった、総合的にこの人気を具体的にどういうふうにご利用していくかということで、御承知のとおり、村山総合支庁、それと山形大学、それから各市町、あるいは地元の山形新聞、あるいは農業協同組合の連合会、いろんな団体でJ1元気プロジェクト会議を山形市も一緒になりながら現在組織化し、いろいろ協議をしているところでございます。現在、各市町で各宿泊者への宿泊割引、あるいは観光施設の入館料割引などが行われているところでございます。山形市では、蔵王温泉でJ1リーグサポーター宿泊パックとして宿泊割引を行っております。また、7月4日の浦和レッズ戦では御承知のとおり、臨時列車が運行される予定でございます。そこで山形舞子さんによる出迎えなんかも、山形の観光のPRということで予定をしているところでございます。また、8月19日のFC東京戦では、市町村応援デーとして山形市が担当というふうになっております。そこで積極的にPRを行っていききたいと考えております。今後ともJ1サポーターに対しまして、いろんな面で訴えていききたいと思っております。

それから、定住自立圏構想に対する考え方でございますが、きのうもいろいろ御提言をいただきました。私は定住自立圏構想を研究対象に2市2町、山形市から2市2町に呼びかけるに当たって、広域連携をさらに強めるためにということで、それぞれの市町にお誘いをかけて、定住自立圏構想というものを研究しましょうということで各首長さんを回らせていただきました。もちろんその中には天童さんも、前市長さんの時代でございましたが、お話をし、それから新しい市長さんになられてからも広域連携をさらに強めるためにということで、定住自立圏構想の研究ということでお話をさせていただいております。経過がございます。こんなことで、その定住自立圏構想を調査研究する中で、きのう申し上げました緊密度が高まることによって、合併の選択もあるということで、あり得るということで、私は基本的にそんな考えで、現在考えているところでございます。なお、こういった分野で、こういった方法でということでございますが、さらにこれにつきましては調査研究をさせていただきたいというふうに考えております。

それから、新しい清掃工場について、広域環境事務組合のあり方が、そのものが問題じゃないのかというふうな御提言でございます。特にごみの排出量に伴っての、山形市の議決権が4分の1と。これは決してごみだけではなくて、し尿関係も広域環境事務組合で今処理をしているところでございます。この議決権が4分の1しかないから、今の清掃工場、あるいは前の半郷清掃工場がとんざ、今反対の立場やっておりますが、4分の1が議決権だから、これがうまくいかなかったということではないと私は思っております。この4分の1の議決権で分かれたがために、山形市の考えが通らなかったということについては、これまでもございませんでしたし、これにつきましては意見が分かれ、決をとって山形市の考えが通らなかったと。こういったことはございませぬ。私は、この広域環境事務組合

でこれまで公募をし、そして今いろんな御意見をいただいておりますが、新しい清掃工場を建てるべく努力しているところでございます。あくまでも、これは広域環境事務組合方式で、したがって、広域環境事務組合のやり方で私は進めていくべきであろうと思っております。新しい清掃工場につきましては、確かに現清掃工場が、今の能力が非常に逼迫をしているということで、これにつきましては、ぜひ何としても解決しなくてはならないと。こんな問題でありますので、議員各位の御協力、御指導をお願いしたいと思っております。

それから、サッカー専用球場建設でございますが、これはきのうの一般質問でも出させていただきました。駅西にということの御提言でございます。私が100億円を超えるというふうなことも申し上げております。これは建設費、建築費のみでなくて、これは県有地でございますので、県有地を確保するという費用も含めて、大体100億円は超すであろうと。こんな県有地の確保の意味を込めてですね、きのうで舌足らずなところがあれば、おわび申し上げますが、県有地を確保するということも込めてですね、100億円を超える多額の金が出るだろうと予測をしております。これにつきましては、また必置義務じゃありませんが、サブグラウンドの問題も浮上してくるだろうと思っております。現時点で駅西にということについては、山形市としては整備は無理であろうということにつきましては、変わりはございません。

それから、いわゆるBDFに絡んで、揮発油等の品質確保法改正後についてでございますが、BDFにつきましては、確かに品質確保等の法律が改正になったということで、これまで混合していたものが5%以下のみとなったと。しかも、いわゆる攪拌機をつけ、それを分析しなくてはならないということで、御指摘のとおり、これまで混合で使っていたバス、地域交流バス、あるいは芸工大、これが使えなくなったと。これも事実でございます。私が今乗っております、あるいはパッカー車が100%でございますので、これは対象外になっているわけですが、これにつきましては、やはりこの攪拌機をし、そして一定のレベルのBDFを精製するということは、私はぜひ必要であろうということをおもっております。これにつきましては、混合油の製造について今後ともですね、いろんな事業者の方々に御協力を働きかけていかなければならないと思っております。そして、ぜひ事業者の方々に御理解をいただいて、我々の公的に使っている車以外に、やはり公共交通機関等への利用を拡大していかなければならないと思っております。今後とも多方面の事業者に働きかけをしていきたいと思っております。

それから、バイオマスタウン構想でございますが、バイオマスタウン構想につきましては、ずっと前の一般質問でバイオマス活用指針ということで、つくった段階で検討をさせていただきますというふうに前の一般質問で申し上げた経過がございます。これにつきまして現在、昨年5月に山形市バイオマスエネルギー活用指針を策定いたしまして、いろんな事業者の方々、あるいは市民の皆様から構成している活用推進会という組織を立ち上げて、この意見を伺いながら推進をしております。この活用指針を実行しながら、バイオ

マス構想タウンについて、今後活用推進会の皆様方の、事業者の方々の御意見、あるいはほかの民間の事業者の方々のバイオマスに対する取り組みについて御意見を伺いながら、このバイオマスタウン構想の公表に向けて具体的に検討をしていきたいと考えているところでございます。

それから、中心市街地、タクシーベイということですが、菊地議員がおっしゃったとおり、現在数カ所のタクシー駐車区の区間を警察で計画をしております。そのほかに御殿堰関係で、いわゆる七日町の拠点の中でタクシーベイをとということですが、これにつきましては、具体的に予定されている事業者の方々とこのタクシーベイについて協議をいたしました。しかし、再開発等の事業等が、タクシーベイを設けるには規模が小さい。こんなことで、これの現時点での、御殿堰周辺での計画している中でタクシーベイを設置することは無理であろうというふうに思っております。このタクシーベイを備えた道路につきましては、この中心市街地の交通ネットワークの骨格となります都心リングの整備状況を考慮した上で、関係機関と協議しながら必要性について検討していきたいと考えております。残念ながら御提言の御殿堰周辺では、現実的には無理だと判断せざるを得ないと思っております。

それから、観光客に向けた自転車の拡充ですが、これにつきましては、現在御承知のとおり、レンタサイクルを市街地のホテル3カ所で利用いただけるように拡大をしております。グランドホテル4台、それからホテルキャッスル3台、メトロポリタンで3台、合計10台のレンタサイクルを御利用できるように、御協力をいただいて現在使っているところでございます。このレンタサイクルにつきましては、さらにその拡充というものを考えていきたいというふうに考えておりますが、御提言の国際ドキュメンタリーも、間もなく開催されるわけですが、それに向けての使い方について、もう余り時間もありませんが、どういった方法がとられるのかですね、検討をさせていただきたいと思っております。なお、自転車用道路につきましては、国土交通省、それから山形県、それから山形市のそれぞれの道路管理者、それから警察が一体となりまして、歩行者と自転車が安全に走行できるように、23年度完成を目標に自転車走行帯の整備を現在進めているところでございます。中心市街地活性化事業に合わせまして、まるごと館、あるいは旧一小、文翔館、あるいは中心市街地の歴史・文化的観光資源のネットワークを図りながら、そうした観光コースの整備を進めながら、貸し出し拠点の増設等を検討し、さらに充実に努めてまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

菊地健太郎再質問

初めて簡潔な御答弁をいただきましてありがとうございます。大変、15分以上も余らせていただきました。それでは再度質問させていただきますが、まとめてちょっとお尋ねします。

観光行政、広域観光圏の整備についても、実はこの広域環境事務組合のあり方、そして

定住自立圏構想もすべて共通するのですが、先ほど広域観光圏に関しては観光協会、各地の観光協会と村総さんと意見交換中であると聞きましたが、ある市の副市長の話聞きますと、やはり何だかんだ言って、山形市がリーダーシップをとってくれなきゃだめだよと。そんな御意見もちょうだいしております。それだけではなく、やはり広域合併も4分の1とはいえ、先ほどわざわざ8割は出していると言ったのは、やはりそれだけ山形市のリーダーシップ、これを発揮しなきゃならないし、できればやっぱり周りの市町村でもそのように見ているということでございます。その辺の御認識を再度していただきたいという願いと、あと実はJ1サポーターへの観光PRなども、これはやっぱり余り受け身で行政として取り組んでいていいのかなとも思います。実際1つ御提言申し上げれば、サポーターはパンフレット、紙媒体などよりも、実際来ない人も含めて、ほとんどがネットとか、携帯のサイトで試合結果を見るという癖があります。ですから、こういった携帯サイトとか、ウェブ、いわゆるパソコンでのインターネット、こちらの方で何とかサポーターが見やすいところにリンクを張るなどして、観光PRにつなげていただければと思います。

あと、先ほどどうも定住自立圏に関してですが、本市のこれからのビジョン、市長の今考えているビジョンという質問に対しまして、まだこれから検討するというところでございますが、確かにほかの周辺の市町との間では、まだ検討中というのが首長としては正解の答えだと思っておりますが、はっきり言って先ほども言いましたとおり、山形市がリーダーシップを発揮しなければ何も進まないことだと思います。そういったリーダーシップをとるべき首長である市川市長が、今現在何のビジョンも、ほかの周りの周辺市町に何を役割分担してもらおうかと、こういったものが全く言葉として出てこないのであれば、リーダーシップ、これから本当に発揮できるかどうかというのが甚だ疑問でございます。その辺、再度今、私見で結構でございます。どのような定住自立圏に対するビジョンをお持ちなのか、簡単に結構でございますのでお答えいただければと思います。

そして、今回の一番の私個人にとっての目玉でございますが、サッカースタジアム建設についてでございます。実は、現在80数事業あります中心市街地活性化基本計画の事業ですが、これ全部やったからといって、劇的に中心市街地が活性化するかというのは、私は甚だ疑問に思っております。それよりも西口へサッカースタジアム建設をすることが、一番の中心市街地活性化につながると思うのですが、もし、もし市長がこの西口へのサッカースタジアム建設以上に、これをやれば中心市街地を活性化できるという考えをお持ちでしたら、それをお示しいただきたいと思っております。

ついでに申し上げますと、実は私10年前、青年会議所というところでJC、いわゆる青年会議所の全国大会、1万数千人規模だったんですが、この大会をやらせていただきました。その際、ビッグウイングや落合のスポーツセンターというのが懇親会や式典などの主会場となったわけですが、やはり宿泊施設が余りにも遠いと。あと、やはり1万数千人規模のそういったコンベンションですと、小さい会議とか打ち合わせ、そういった会場が

必要となります。となると、あの地区にホテル一つないと。あるのは大野目温泉だけと。そういう状態では、コンベンションを行うのに非常に不便な場所だと感じました。その結果として、1万数千人の4割以上の青年会議所のメンバーは、仙台市内に泊まったという結果になりました。よって、この西口にスタジアムをつくれれば、周りにはテルサもあります。あいているスペースの多い霞城セントラルなどもあり、さらにホテル、周りにはたくさんあります。そうなるとこのスタジアムを中心とした、スタジアムをメイン会場としたコンベンションエリアになるのではないかと思います。さらにこのスタジアムの中で、今全国的にサッカー専用スタジアムを使って、ラグビーなんていうのはすぐできますが、コンサートや結婚式なども行われているようです。これを民間といいますか、これを利用の仕方をいろいろ考えれば、65億円というのは、はっきり言って安い支出だと思います。すべて山形市で負担するわけではないのですが、もう一度この辺、考え方をお示しいただければと思います。

ついでにちょっと申し上げますと、今第四小学校グラウンドが道路拡幅によって、さらに狭くなって、1周140数メートルのグラウンドになっております。ここではサッカーの試合すらできないという状況でございます。第一小学校はもっと狭いと。さらにいろいろお聞きしますと、市内のナンバーズスクールでサッカーの試合ができるのは第九小学校のグラウンドだけという状況でございます。落合は2面しかなく、落合のスポーツセンター、なかなか予約殺到でサッカーの大会にはなかなか使えないと。結局、山形市内の小学校のサッカー大会を天童でやっているというのが実態だそうでございます。さらに、霞城公園整備計画でますます運動施設がなくなりますが、ちなみに霞城公園から真っ先になくなったのは、サッカーの試合などをやっていた運動広場です。今後中心市街地、きのうの質問でもありましたが、ますます運動施設がなくなります。先ほどお示しした図面のとおり、サッカー場、そして体育館も併設、あのスペースにできるわけですから、ぜひこの辺、もう一度御検討をいただけるかどうか、この辺をお聞かせいただければと思います。

それと、次に揮発油等の品質確保絡みのBDFですが、こちらがですね、事業者に働きかけるという力強い御言葉をいただきましたが、現実的に、私もある事業者にお話を伺いに行ったんですが、今現在、東北でこの攪拌機を備えてBDFと軽油を混合している会社は1社もございません。全国で確か12件のみでございまして、ほとんどがそれをやっているのが行政か、または本当に石油の卸売、小売じゃなく卸売で、かなり大きく商売をやっているところ以外はなかなか対応できていないようです。事業者に働きかけるというのもいいんですが、それができなかった場合、市としてこれはそういう施設をつくるなどの決意があるのかどうか、お聞かせいただければと思います。

ということで、以上で2回目の質問に対してお答えをいただければと思います。

市長再答弁

観光圏計画の策定、あるいは定住自立圏についてのリーダーシップをとということでござ

います。観光圏につきましても先ほど申し上げましたように、やはり7市7町がビッグウイング、コンベンションビューローも構成市町村でやっております。その中で、この観光圏整備計画につきましても、やはり山形市がリーダーシップをとりながら、していく必要があるというふうには思っております。なお、村山総合支庁のエリアでもあるし、それらと一緒に協議しながら、山形市の立場ということも協調しながら検討していきたいと思っております。

それから、定住自立圏構想について、どういった、自分の考えがないのかというふうな御提言、御質問でございますが、これにつきましては対外的な問題もございます。私は、もう少しこれにつきましては時間をいただきたいと思っております。

それから、J1サポーターについての、いわゆる情報化について、ペーパーだけじゃなくてということでございますが、これにつきましては当然、J1のサポーターの方々の一番利用しやすいもの、これについては、それを利用しての情報提供というのが一番有効であるのが当然でありますし、これについては、先を見ながら対処していかなくちゃならないなというふうに思っております。いろんな会議がございますので、その中でそういった情報の手段について、いろいろ提言をしていきたいと考えております。

それから、西口へサッカー場をとということでございますが、私はやはり100億円、用地費も含めての100億円ということ。それから、面積は十分だというふうな菊地議員の御提言でございますが、いわゆるサブグラウンドの問題もあるでしょうし、これは、私はやはり財政面からも現時点での山形市としては無理であろうという考えに変わりはありません。小学校のサッカーができないんじゃないかということですが、私自身、現時点ではまだその実態については把握しておりません。子供たちのサッカー場についてはどういった方法があるのか、どういった現状なのか、今後調査をしてみたいと思っております。

それから、品質確保法でBDFについて攪拌を、全国では件数は少ないかもしれませんが、民間の事業所でやっております。全国ではですね。菊地議員も、ある事業所をお回りになったということはお聞きしてございます。私はもう少しそういった事業所の方々の御協力、御理解がいただけるんじゃないかということで努力はさせていただきたい。努力はします。どうしてもということがあれば、行政で抱えることが法的に問題があるのかなのか、その辺はまだちょっと私不勉強でございます。その辺の可能性も含めて検討をしていきたいというふうに思っております。以上です。

菊地健太郎再々質問

どうもありがとうございます。まだ時間がありますので、もう一度、逆に質問をされたような気がいたしまして、もう一度質問させていただきます。

サッカー専用球場、西口でございますが、用地取得を目指しての金額100億円というものなのかどうか。先ほど豊川議員の質問の中でもありましたが、どうやら県知事とはごじっこんのようなので、県も巻き込んで、県有地をそのまま無償で定期借地権などをつけ

て借りる、または協力いただくというのであれば、用地の問題というのは金額が発生しないのではないかと思います。また、サブグラウンドですが、これはJリーグの中で、特に隣接してサブグラウンドを設ける必要はないということになっておりますので、その辺は問題ないかと思えます。もう一度このサッカー専用球場について、どうもできない理由を述べられて、考えられて述べられているのではないかと思いますので、再度調査研究していただけるかどうかで結構でございますので、御答弁いただければと思います。

市長再々答弁

今のサッカー場について、これはもちろん概算です。用地費も含めて、建設費。それから、サブグラウンドも隣接する必要はないということでございますが、それがじゃあどういったところに設けなくちゃならないのか。こんなことがございます。現時点で、この西口に設けるということは無理であろうというふうに思っております。なお、用地について県の方と話をしたらいいんじゃないかということでございますが、これについては、市としてそういったものをあそこに建てるというふうな意思決定があつて、初めて対外的には動けることであつて、どうのこうのというのは、内々の話はできるかもしれませんが、正式には、そういったことはまだ時期尚早であろうと思っております。なお、現時点で駅西につくるということは無理だろうと思っております。以上です。

菊地健太郎締め

どうもありがとうございます。なかなかきょうのこの場面では進展しそうにないので、お昼も近いので、そろそろ最後とさせていただきます。

皆様御存じの、幕末の志士を数多く輩出しました松下村塾の吉田松陰は、「夢なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に実現なし。しかるに、夢なき者に実現なし」と言っております。

できない理由を探すのではなく、市民の夢を形にするのが我々、そして行政の仕事だと思います。これから自立した地域をつくっていくためにも、検討や調整、研究だけではなく、時には大きな決断を持ってリーダーシップを発揮していただき、ぜひ我々の夢を実現していただくことをお願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

何故か市長答弁

確かに、夢なければという言葉は十二分にわかります。私は山形市長として、自分が経営計画を公表し、こういった経過、内容も説明し、市民に説明し、自分がやれるものは、やるものは5カ年でこれだけですよというふうに申し上げております。これが、私が市民に対する誠実な態度であろうというふうに思っております。以上です。